

2013年9月15日発行

K



(公社)神奈川県理学療法士会ニュース

The Kanagawa
Physical Therapy Association
News

P

9 2013
September
No.253

http://www.pt-kanagawa.or.jp

A

Kanagawa Physical Therapy Association

○発行 | 神奈川県理学療法士会 ○代表 | 秋田 裕 ○編集 | 加賀谷善教

○発行所 | 〒220-0003 横浜市西区楠町4-12 アーリア20 101号 Tel.045-326-3225/Fax.045-326-3226 E-mail:jimukyoku@pt-kanagawa.or.jp

○会員数

[25.8.1現在]

3,960名

Contents

P1▶巻頭言 P2▶活動報告 P4▶会員ライフサポート部活動報告41報 P6▶会長行動報告 P8▶学会情報 P10▶新人教育プログラム
P11▶研修会・講習会 P15▶information P17▶理事会報告 P19▶ちよいんと P20▶解剖こぼれ話/いい本みつけ。 P21▶求人案内
P28▶編集後記/原稿・広告送付先

巻頭言



理学療法士と検診活動

北里大学 医療衛生学部 リハビリテーション学科
理学療法学専攻 渡邊 裕之

みなさん、検診という言葉から何を想像しますか。肺がん検診、乳がん検診等、聞き覚えのある言葉は多いと思いますが、従来は理学療法士とは無縁の世界ではないでしょうか。「けんしん」という言葉には健診と検診の2種類があります。「健診」は健康であるか否かを確認するものであり、病気の危険因子が存在するか検査するものです。「検診」は特定の疾患を早期に発見し、早期に治療することを目的とし、予防医学の二次予防に該当します。検診の多くが高額医療費や生命予後に強く影響するがんに関連する検診が主体です。

最近、少年野球を対象に肘関節のスポーツ傷害に対する検診が全国で実施されています。検診の対象は、少年野球の肘障害の総称である野球肘ですが、この傷害に含まれる離断性骨軟骨炎は、軟骨下骨に壊死が生じる疾患です。肘の離断性骨軟骨炎は、X線像から確認できる離断像（進行期）以降に達すると、機能障害を残す可能性が高くなります。また、検診によって発見することの出来る初期の段階は、その後の適切な管理によって障害を残すことなく完治させることが可能です。したがって、検診による早期発見は、臨床上極めて高い意義を持ちます。さらに、離断性骨軟骨炎は機能障害を伴うことに加え、少年野球での発生頻度が2%前後であるため、8000人の少年野球選手を抱える横浜市では約160人に相当します。毎年160人の子供達が機能障害を残す疾患に罹患することを考えると、検診による予防意義は高いと考えられます。

最近の検診では新たに超音波画像診断装置の導入により、離断性骨軟骨炎の発見の割合が増加しています。初期の離断性骨軟骨炎は無症候性であることが多いため、超音波画像診断装置による検査は有用です。また、離断性骨軟骨炎の発見だけであれば画像検査のみでよいのですが、スポーツに関わる傷害の多くは動作の特徴に起因するため、身体機能の評価も同時に行われてきました。身体機能の評価に関わるのは主として理学療法士です。

現状において身体機能の評価は、離断性骨軟骨炎を示す証拠にならないので検診の目的と合致しません。しかしながら、発症に関連する身体機能を明らかにすることができれば、機能特性の改善から発症を予防することが可能になるかもしれません。従来は検診が増悪する可能性の高い疾患の芽を潰すことであれば、肘検診は発症を予防する要素を含んだ新しい観点で行う検診と位置づけられないでしょうか。

検診の問題は、がんの検診を見ても分かるように検診率が非常に低いことです。生命予後に関わる検診でさえ検診率が低いのです。さらに肘検診の対象者は自分で判断することのできない子供達です。検診で問題が発見されると野球を中止する可能性があるため、子供だけでなくコーチや保護者まで“検診＝野球ができなくなる”と考え、検診を避けることがあります。判断能力のある大人でさえ肘検診に対して否定的になるのです。我々の目的は子供達が重度な障害を残すことなく、生涯野球を楽しむことと同時に自分の夢をケガであきらめさせないことなのです。肘検診は検診の意義を子供達やコーチ、保護者そして社会に認知させることも目的の一つになっています。

現在、神奈川県下での肘検診活動は数カ所で行われており、今後横浜市などで計画が進められています。横浜市では関東近県では類を見ない大規模な検診となることが予想され、数百～数千名を対象者を検診することになる予定です。多くの検診活動の発起人は医師ですが、検診に協力できる医師の数に限りがあるため、活動の主体を理学療法士に依存する肘検診も見られます。医師に比較して理学療法士の協力は得られやすいのですが、大規模な検診となると十分なマンパワーの確保は困難です。子供達が機能障害を残さず安全に野球が行える環境を提供するため、多くの理学療法士による協力が得られることを期待しております

活動報告

神奈川県三士会長協議開催

総務部長 木下 尚久 (介護老人保健施設つくしの里)

6月30日の本会総会后、本会会長と一般社団法人神奈川県作業療法士会会長、言語聴覚士会会長が初の協議を行いました。主な議題は神奈川県の訪問リハビリテーションについて、各士会担当理事の報告を交え積極的な意見交換を行いました。

協議の結果、神奈川県民により良い訪問リハビリテーションサービスを提供していくために「神奈川県訪問リハビリテーション協議会」を設置する方向で各士会が準備を進めることとなりました。

また、今後も神奈川県三士会長が集まり、協議をする場を持つことも確認されました。

神奈川県訪問リハビリテーション協議会設置の経過については「訪問リハビリテーションに関するお知らせ」(県士会ニュース、ホームページ等)にて会員の皆様にお伝えしていきます。



(写真：本会事務局にて右から本会秋田裕会長・言語聴覚士会鈴木恵子会長・神奈川県作業療法士会渡邊慎一会長)

「理学療法の日」新百合ヶ丘駅前キャンペーン

医療法人社団 三成会 新百合ヶ丘総合病院 リハビリテーション科 古川 広明 頼経 貴正 仲佐 壇 坂本 恵

神奈川県士会の皆様、はじめまして。私たちは平成24年8月1日に川崎市北部の麻生区に新設された新百合ヶ丘総合病院のリハビリテーション科でございます。当院は「すべては患者さんのために」を理念として掲げ、がん、心臓病、脳卒中などの克服を目指し、高度な医療機器の積極的な導入と、高度な専門医療の実践により、患者さんの期待に応えられるよう地域医療に尽力することを使命とし、オープン致しました。

現在、理学療法士が活動する場は、高齢社会の進展、医療高度化などにより、医療、福祉、介護の分野だけでなく、疾病予防や保健など様々なステージに広がっています。理学療法の日とは、そのような理学療法士とその活動をより多くの方に知って頂くことで、日本全体の保健・医療・福祉がより良くなることを願って定められた日です。

今回は、平成25年7月17日の「理学療法の日」にちなみ、7月13日(土)に新百合ヶ丘駅前にてキャンペーンを実施致しました。また、7月17日を挟んだ一週間は「理学療法週間」となっているため、「理学療法フェスタ」の紹介もさせて頂きました。

内容としましては、日本理学療法士協会、神奈川県理学療法士会のご協力のもと、理学療法士の活動を紹介するためのリーフレットを各500部頂き、配布致しました。リーフレットの内容は、日本理学療法士会「笑顔をあきらめない”理学療法士ガイド”」、神奈川県理学療法士会「理学療法士はあなたの生活のサポーターです”理学療法フェスタ」などで、クリアファイルにまとめ配布致しました。当院からは理学療法士の他、看護師、社会福祉士、広報などの事務職員にも協力して頂き、さまざまなお質問に対応できるよう準備致しました。

当日は、午後12時頃よりポスター掲示などの準備を行い、午後13時よりリーフレットの配布を開始致しました。当日は天気がよく、暑い中、多くの方が足を止めて下さり、話に耳を傾けて下さいました。駅前で2時間活動予定でしたが、開始後約1時間半で準備していたリーフレット500部を配布し終わるほどの盛況でした。印象は、比較的高齢の方は実際にリハビリを受けている方もおり、リーフレットを持って行かれる方も多数いました。また、20～50代の方は、現在学校に通って



いる方、働いている方が多いためか、理学療法に関する関心は薄い印象を受けました。

駅利用者の年齢層は10代から70代と幅広く、その中で資料の配布や街頭での声掛け、ポスターの掲示により、興味を持って頂いた方も多く、足を止め、話を聞いて下さいました。質問は、「理学療法士って何?」、「リハビリはどうすれば受けられるか」、「リハビリはどういうことをするのか」という質問から、「膝の痛みで悩んでいる」、「骨折した後から痛みがよくなる」、「家族が家から外出できなくて閉じこもりになっている」などの具体的な質問がありました。印象的な質問は、理学療法士を目指す学生から「どうすれば理学療法士になれるのか」、「実際に働いてみてどうか」、「勉強は大変か」などの具体的な質問で、今後理学療法士を目指す高校生との関わりは大変嬉しく思いました。理学療法以外の質問では、健康診断について、当院についてなどの質問を頂き、相談課、事務課で対応致しました。

総合的に考えると、理学療法の認知度は、特に30～50代の方に対してはまだ低く、「リハビリ」の言葉には反応するも、「理学療法」の言葉自体も知らない方が多いような印象を受けました。比較的高齢の方からは、理学療法についての具体的な質問があったように、認知度は高い印象を受けました。

また、「家族が家から外出できなくて閉じこもりになっている」という相談があったように、在宅でのリハビリの重要性も示唆されました。最近では、急速な高齢化と病院から在宅へという医療施策の変化に伴い、在宅で療養する要介護者が増えているため、当院でも退院後の患者様とどのように関わっていくか、再度考える機会を得ることができました。

今後は予防の観点から考えても理学療法フェスタなどを通じて、30代から50代の方の認知度を上げ、運動の大切さに加え「理学療法」という言葉も知って頂けるように日々リハビリに励み、社会に発信していくことが大切であると感じました。

また、介護保険分野の理学療法に関しては、社会の認知度はまだまだ低く、今後どのように社会に発信していくかが今後の課題ではないかと感じました。介護保険分野、在宅部門の理学療法士の役割や、病院勤務の理学療法士との関わりに関しては、現在未確立であるため、今後の検討事項として挙げられると思います。

今回、「理学療法の日」の駅前キャンペーンを通じて、改めて理学療法の社会での認知度の低さを実感しました。国民の皆様は理学療法士の存在意義を高めるためには、セラピスト個々の質の向上が鍵を握ると考えます。引き続き、「すべては患者さんのために」より良いリハビリテーションサービスを提供できるよう精進したいと考えます。

今回の活動に当たり、ご協力頂いた皆様にこの場をお借りして御礼申し上げます。



*理学療法の日：昭和41年7月17日に日本理学療法士協会が設立されました。

**同様の企画、大歓迎いたします。ぜひ、<soda@pt-kanagawa.or.jp>にお知らせください。(社会局理事惣田追記)

活動報告

休会会員に対するアンケート調査報告

会員ライフサポート部 清川 恵子

会員ライフサポート部
活動報告
職場環境を考える

第41報

今回、当部では昨年7月に休会会員へ向けてアンケート調査を行いました。「なぜ、休会会員？」と思われる方もいらっしゃると思いますが、これまで様々な復職支援活動を考える中で我々はこのアンケートにたどり着きました。その理由も併せてぜひご覧になってください。また、先日、名古屋で開催されました「第48回日本理学療法学会」でのポスター発表についてもほんの少しで報告させていただきます。

はじめに

当部では、これまで会員を対象に出産・育児・介護に関わる問題について考えてきました。しかし、これらは離職中の会員からの回答が少なく、就業継続について問題を抱えている会員の意見が反映されているとは言い難いものでした。そこで、休会会員を対象にアンケートによる実態調査を行いました。

休会会員について

休会希望者が休会申請の手続きをもって承認される
<規定(抜粋)>

- ・年会費が免除される
- ・研修会等への参加資格がなくなる
- ・情報誌(理学療法学など)の送付がなくなる
- ・休会期間(1年)満了後までに復会・休会継続の手続きがない場合、退会となる …など

目的

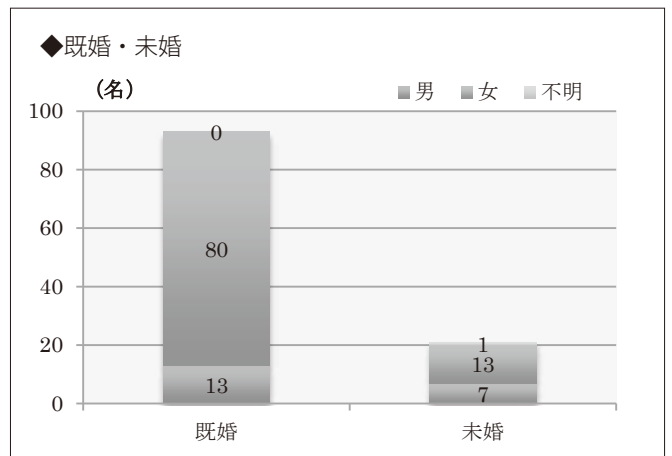
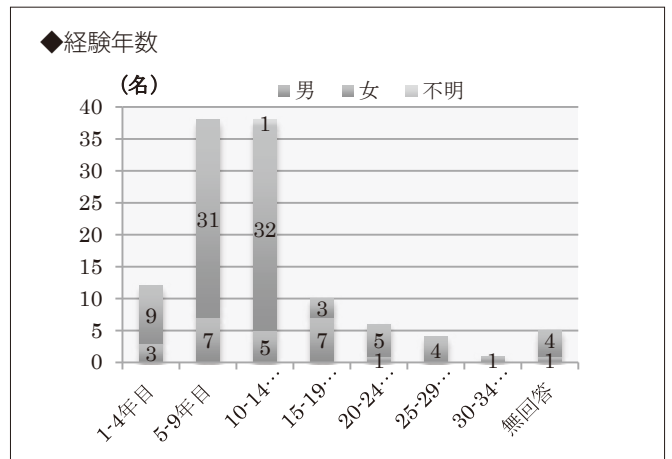
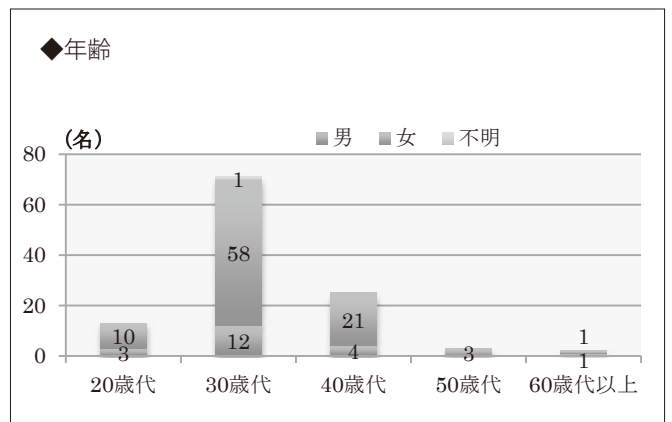
- ・どのような理由で休会に至ったのか
- ・実際、就業継続の問題を抱えている休会会員はどのくらいいるのか
- ・復職などの情報はどのように収集しているのか

方法

対象：会員3690名中、休会会員330名
調査期間：平成24年7月の1ヶ月間
往復はがきを送付、郵送にて回収

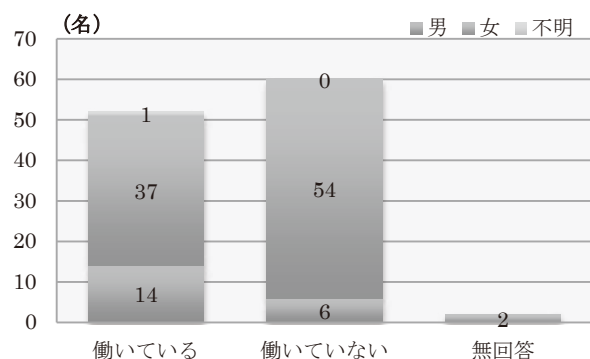
結果1

有効回答者数114名、回収率39.3%
【性別】女性81.5%(93名)、男性17.5%(20名)

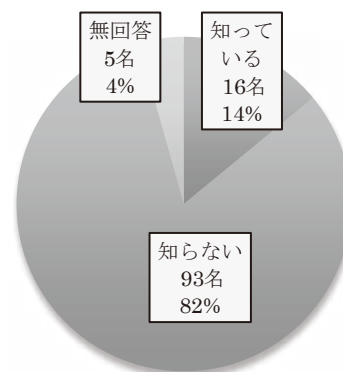




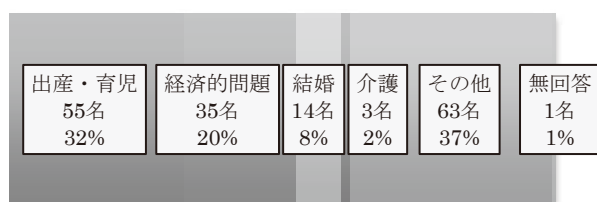
◆PTとして働いていますか



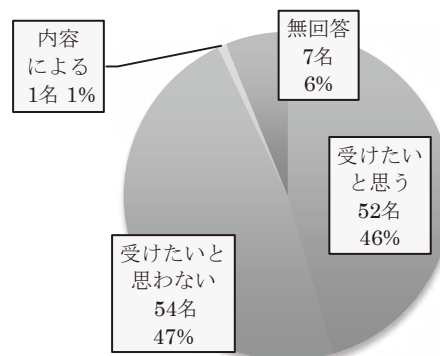
◆復職支援研修を知っていますか



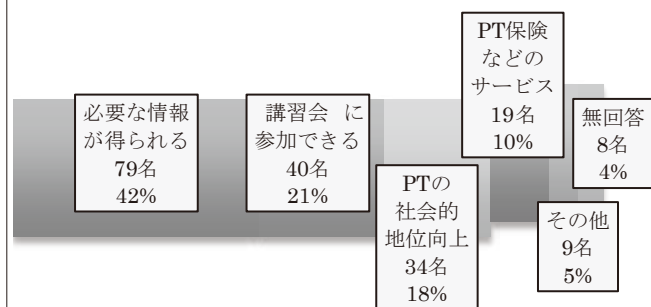
◆休会の理由 (複数回答)



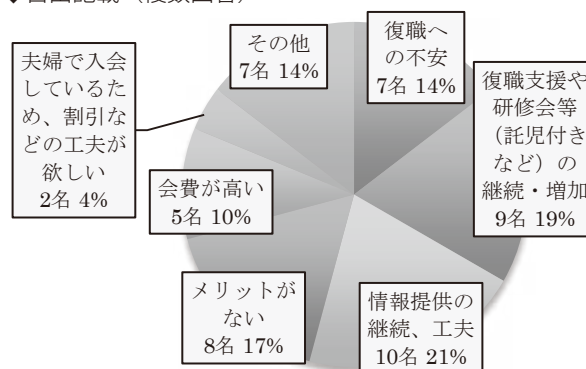
◆復職支援研修を受けてみたいですか



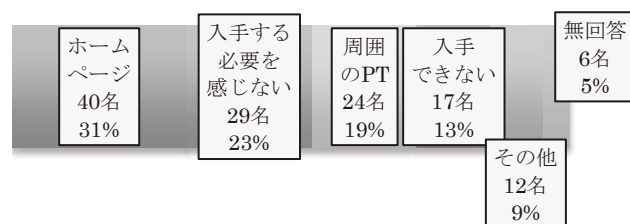
◆本会へ望むことは (複数回答)



◆自由記載 (複数回答)



◆復職支援情報の入手方法は (複数回答)



結果2

1. 結婚や出産・育児による離職と同時に休会会員となる者が多い。
2. 離職により、復職に不安をもつようになる。
3. 再就職の際、休会会員になったことにより、必要な復職情報の入手ができていない場合がある。
4. 会費を払って会員継続するメリットがないと考える会員も少なくない。
5. 復職支援研修について知らないが、知っていれば受講したいとの回答が多かった。

活動報告

考察

1. 復職に必要な情報の提供や支援事業は役立つと考えられる。
また、休会会員に対する情報提供の方法の検討が必要である。
2. 離職中であっても、本会主催の研修会や支援情報などは役立つと考えられ、会員のニーズにあった情報を分かりやすく伝えることが必要である。

学会報告を終えて

第48回日本理学療法学会（名古屋）の最終日、5月26日（日）に前述の内容でポスター発表をしてきました。（今回は写真を撮るのを忘れてしまいました！）

当部の発表には相変わらず、少数ながらも興味津々で聞きに来てくださる先生方がいます。その多くは、県外で同じような活動をしていらっしゃる方々です。今回も富山県士会の男性の先生が質問に来てくださったり、また、発表後に座長とポスター会場の人が少ないまで情報交換をさせて頂いたりしました。このようなときが「活動してきて良かったな」と思う瞬間でもあります。

今回の調査をふまえ、当部としては何らかの理由で離職した場合でも、復職に必要な情報の提供や支援事業が行われていること、またそれらを分かりやすく伝えていくことで、少しでも会員支援に役立てていきたいと考えています。

*** 会員ライフサポート部からのお知らせ ***

■今年度もやっています！

- ①平成25年度復職支援実務研修……詳しくはp27の求人欄をご覧ください
- ② 託児室付研修会&交流会 ……詳しくは神奈川県理学療法士会ホームページをご覧ください

■部員募集中

一緒に活動して下さる方大募集。年数回、神奈川県理学療法士会事務所で集まって活動しています。また、会議には参加できないけれど、ご意見、ご要望がある、メールを通して活動に参加したい方（メールサポートメンバー）も随時募集しています。

連絡先：lifesupport@pt-kanagawa.or.jp（会員ライフサポート部 寺尾）

*** 会員ライフサポート部部員・メールサポートメンバー募集中 ***



月	日	内容	場所
6月	1日(土)	新人オリエンテーション、常任理事会	横浜西区公会堂
	4日(火)	常任理事会、会務処理	事務所
	7日(金)	協会理事会、理事懇談会	田町カンファレンスセンター
	8日(土)	総会議事運営委員会、第42回日本理学療法士協会総会	ベルサール半蔵門
		交流会	半蔵門グランドアークホテル
	16日(日)	神奈川県保険医協会50周年祝賀会	ベイシエラトリアンドタワーズ横浜
	19日(水)	会務処理	事務所
	23日(日)	49回学会調整会議	田町カンファレンスセンター
	25日(火)	第2回事業運営会議、会務処理	事務所
	26日(水)	神奈川県医療専門職連合会総会	中外製薬横浜支店会議室
	27日(木)	49回学会準備委員会	事務所
	30日(日)	第34回定時総会、臨時理事会	神奈川県社会福祉会館
		PT・OT・ST三士会会長会議	事務所
公益社団法人移行祝賀会		ベイシエラトリアンドタワーズ横浜	
7月	3日(水)	会務処理	事務所
	9日(火)	常任理事会、会務処理	事務所
	13日(土)	理学療法フェスタ公開講座	あーすぶらざ会議室
	19日(金)	山口和之個人演説会	横浜市開港記念会館
	20日(土)	茨城県理学療法士会公益法人移行祝賀会	茨城県保健衛生会館
	23日(火)	第3回事業運営会議、会務処理	事務所
	24日(水)	49回学会準備委員会	事務所
29日(月)		49回学会調整会議	田町カンファレンスセンター



報告します！発達障害支援者意見交換会

社会局 発達障害支援部 部長 萩原 聡
 発達障害支援者意見交換会班長 深澤 宏昭

発達障害支援部では平成25年6月16日（日）に「発達障害支援者意見交換会」を開催致しました。小児領域の理学療法に関わる県全域11施設11人の会員にお集まりいただきました。

意見交換会を開催するにいたった発端は、第30回神奈川県理学療法士学会の小児指定演題「子どもの成長を支え、つなぎ合うために～NICUから地域生活をどうつないでいくか～」が発表されたことです。より良いサポートのための多職種連携には、まず、理学療法士間の連携の構築・発展が求められています。そのためには継続的に話し合いの機会を設けることが第一歩であり、部として取り組んでいく必要がある課題の一つでした。

当日の会議では様々なことが話題になり、単に神奈川県といっても、地域によって課題が異なることが明確になりました。重度な障害があり高度な医療ケアが欠かせない子供たちの受け皿が地域によって異なり充足していないこと、複数の医療機関に通院されている方が多くなっているが転院前後の病院・施設間の理学療法士同士の連絡ができていないこと、時代の流れとともに病院の変化、行政的・社会的な変化、家族の多様性など昨今の変化が大きい、等の課題を共有することができました。話題が多く時間の足りない場面もありましたが、地域で働いている会員が多くの課題を感じていると実感しました。

意見交換会は今回が初めての試みであり、企画から会の開催まで一から積み上げて行きました。学会の指定演題者の方々をはじめ、各地域でご活躍をされている方々にお声かけをし、公募でも参加者を募りました。ご連絡や当日の会議に向けての準備などスムーズに進まないことも多く、一つの企画を完成させるまでの難しさを痛感しました。

意見交換会の到達地点は、話し合いで挙げられた現状の課題の具体的対策をすることです。今回は現状の課題を話し合い終了になりましたが、意見交換会は今後も開催する予定です。ビジョンを明確にし、継続的に行っていきたいと考えています。現状抱えている課題を、課題として意識することなく当たり前のようにできていること、そして社会の流れとともにまた新しい課題について議論を進めていけることが理想だと考えます。一步一步着実に前進できるように、今後とも部としての活動を考えていきたいと思えます。

次回も本会ホームページで参加者を公募します。ご応募お待ちしております。



神奈川県理学療法士会

新しいロゴマークが出来ました！

公募にて17件、29作品が集まり厳選の結果、
 大阪在住の今井弘実さんの作品に決定しました。

学会情報

第49回日本理学療法学会大会だより (No.5)

学会準備委員会学術局長 菅原 憲一 (神奈川県立保健福祉大学)

本格的な暑さが続く今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか？

来年度行われる第49回学会の準備もこの暑さ同様に一段と厳しさを増してまいりました。当準備委員の一員となりはや2年以上が経過し、へとへとな状態からこの暑さによって夏バテ状態になりつつあります。しかし、みんなで盛り上げる学会をめざし日々奮闘しております。

さて、この度は当学術局の仕事とその状況について皆様にお知らせし、当学会に対しての期待を膨らませていただき、一緒に作り上げる喜びを感じてほしいというのがこの文章の目的です。

学術局は学術企画部、演題部、学術誌部の3部から構成されています。学会の屋台骨である学術そのものを形成する局として非常に重責を担っていることひしひしと感じています。

学術企画部は会期中に行われる講演、セミナー、シンポジウムなどの方向性やタイトル、講師を設定する部であり多くの人の意見を取り入れ構成する部であります。多くの人に来てもらい、そして、興味を持って聞いてもらえる内容となるように腐心し、月1での会議を継続的に行ってまいりました。苦心の末、現在では初日に行われるモーニングセミナーを除きほぼ全体がまとまりました。どの時間帯も非常に興味深い内容と講師の方々を人選しています。間もなく、理学療法学の緑のページ“第2報”として決定された内容が示されると思います。企画部員一同、自信をもって提示できる快心の内容となっていますので、乞うご期待です。もう一つ企画部の役割として学術表彰に関わる事務的な業務を行います。

演題部は学会中に行われる一般演題、ポスター演題に関わる業務を一手に引き受ける部となります。これも学会の花である演題を募集、審査、構成、座長配置など多くの業務を各専門領域の担当者で行っていくこととなりこれからまさに皆さんに抄録集が届くまでの間忙しくなる部です。発表される方々が気持ちよく発表できるだけでなく、多くの意見交換ができてさらに研究が開花するようになることを願いつつこれからの業務を行っていくこととなります。

学術誌部は、理学療法学を基盤に広報、抄録集と学術大会号の編集を行う部となります。学術誌部に関しても演題募集が行われてから後、様々な学会構成を考慮し、皆様のもとに届く抄録集が見やすく、活用しやすいようにと高い意識のもとに作成をしていくこととなります。特に今回は初の試みとして学会場にて当日のプログラムをスマートフォンやタブレットで検索可能となる予定です。さらに、学会後の学会特別号についてもWEBのみとなることなど、初の試みが検討されています。

以上のように各部大変忙しく、今後さらに加速した活動を行っていくところです。

再三言われていることではありますが、第49回大会は現行の各県持ち回りによる学会運営としては最後の学会となります。“49回”、理学療法士誕生からほぼ半世紀の締めくくりの学会であるという自覚をもって学術局の委員は細部にこだわった企画を行ってきました。聞いてみたい、参加してみたい、といった興味をそそることが次の発展につながる。県士会の多くの方々は学会運営に携わるとは思いますが、他県から来た人たちが面白いと感じている学会となるようお互い頑張りましょう。





— 第31回神奈川県理学療法士学会新聞 vol.3 —

県学会新聞

演題登録締切間近 三つのスタイルで 募集中

抄録集の表紙
デザインが決定!!



本学会での発表形式は三つに分かれており、より参加しやすく活発な意見交換がされやすい環境作りを目指しています。

一つ目の形式は口述発表です。集まった多くの来場者に対し発表者自身の言葉で伝えることができます。こちらには学会賞が新たに設けられました。奮ってご参加ください。

二つ目はポスター発表です。こちらはポスターをじっくりと来場者に眺めてもらってその場で意見交換ができるメリットがあります。

三つ目は、その名を Case Movie Discussion と言います。ポスターに動画を交えて発表するというものです。

動画があることで初めて症例のことを知る来場者にもよりリアルに症例を理解してもらおうことができ、発表者にとっても意見がもらいやすい環境になります。この発表に関しましては治療に際して悩んでいる難渋例の相談という形でも発表可能ですので、気軽に参加いただければと思います。

また、発表をより行いやすくするため、学会ホームページ上に「初めての学会ナビゲーションシステム」を導入しました。ここでは研究のほじめ方、抄録の書き方、スライドやポスターの作成方法などが発表への道しるべが記載されています。是非ご覧ください。

シンポジウム・公開講座の講師決定

今回のシンポジウムでは、慶応大学の山本淳一先生をお招きして御講演いただきます。

専門は応用行動分析学であり、内容はリハビリテーション効果を引き出し、まさに明日からの臨床にも生きてくることになるところです。

また、県民公開講座では大淵修一先生から御講演いただく健康寿命に関する話や健康体操の紹介をいただける予定です。是非一般の方々にもご参加いただけたら、会員の皆様からも宣伝していただければと思います。

次号では、学会の詳細な内容や遠隔地中継に関する情報を一挙公開予定です！

お楽しみに！！

ホームページでは内容を随時更新中ですので、こちらもご覧ください。

金川賢です！
よろしく！



会期と会場

平成26年3月16日
ワークピア横浜
(みなとみらい)

演題募集締切迫る！

平成25年8月1日～9月30日

新プロ症例発表、もしくは生涯学習15ポイントを取得しよう
(参加+発表)

目指せ！学会賞！

